

# ひまわりからの メッセージ

118号

2021.6.14

NPOひまわりの花内  
西濃地域  
癡聴障がい支援センター

発行人：中野たみ子



心のゆとり

庭の隅にムラサキツユクサを一株見つけました。植えた覚えはないのに……。この花は、朝咲いて昼ごろには萎んでしまう一日花です。花に触ると洋服が紫のしみになるので、昔は避けて歩いたのですが、一株だけ咲いてると、何故かいとおしくなります。

梅雨の季節、コロナのことを聞かない日は無く、マスクが当たり前になり、花を愛する心のゆとりも無くなっているのがなあと思います。先日は、訪問先の園の近くでストケシアやゴテキの花を見かけ、ああ、この花はこの季節の花だったっけ……と長い間見かけなかつだなあと思ったことでした。

さて、皆さんはお元気でしょうか。センターの親の会も五六月が休会になり、人づてに紹介されたという方々からの電

話相談が多く入って来ます。お会いして、ゆっくりお話を思ふものの予定がぎりぎり詰まっていて、なかなか思うようににはいきません。申し訳ないと思いつつ自分の力不足を思い知らされる日々もあります。

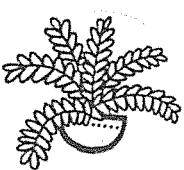
子どもたちは元気ですか。学校生活が辛くなっている子やお母さんから離れられない子、暴言暴力が加速している子など感受性の強い子などには社会の不安が直撃してしまうでしょう。十代の自殺も増えていますと聞きます。そして、そういう子ども達の心の叫びやサインを受け止めるだけの心の余裕が大人の側にもなくなってきてしまいながら、一人で悩まずに誰かに話を聞いてもらう、だけでも安らげるものですから、話したいなあと思うてもうれる大人の一人になりたいといつも思っています。

ところで今日、私はコロナワクチンを打ちに行くことになつたのですが少々不安でもあります。そんな心配症の私が家を出た所、隣家のブロック塀にいる蝶螂(かまきり)の赤ちゃんを見つけたのです。蝶螂の子が生き長らえる確率はとても低いのだそうですが小さな小さな蝶螂を見ていたら、この自然の中でがんばって生きていってねと、思わず声をかけていました。そして、不安な世の中だけど子ども達が自ら命を絶つことのない様にと祈らずにはいられませんでした。

# 「見る力」について

「子どもたちの困りごと」

早く気づくためにも



空間認知など視機能と呼ばれる力が「見る力」として働いてい

るのです。例えば「読む」ことを考えてみましょう。読むためには、次の三つが必要です。

① 眼球運動……本を読むには、文字を順番に目で追っていくこと(追従性眼球運動)と、行かえの時には、見ている場所から視点を次の行に瞬時に移す(注視点移行)ことが必要です。

② 形を捉える力(形態認知)……文字そのものを正確に読むには、「め」と「ぬ」、「キ」と「ヤ」など似た形の文字を別のものとして捉える必要があります。

③ 文字を音に変換する力(音韻認識)……「やかな」という文字が目で捉えられたら、一文字ずつの文字と音を対応させる必要があります。「ヤ」「カ」「SA」「ガ」「タ」「ナ」「ミ」「ル」と対応させないといけません。

見学を続けています。

私の三番目の孫は一歳になる前に目の動きの異常を認め小児眼科を受診することになりました。遠近や高低差が見え難かったので、なかなか独歩できないようにならざんばでした。

田で見る力」というと、視力のことだと思つてしまいますが、そうではありません。眼球の動き、両眼視、調節機能、

昨年末にオプトメトリストの谷口先生が保護者向けオプトリストを送って下さったので必要な方はお申しください。

以下は、谷口先生（視覚機能検査センター・オブ・メタリスト）からいただいた資料をまとめました。

## 見る力の機能とは？

見る力には個人差があり、目をうまく効率よく使える人と苦手な人もいます。私たちが情報を取り込む時には、およそ10パーセントを目が取り込んでいると言われています。

では、見る力の機能とは、どんなものがあるでしょう。

- ① 視力……一般的に行われている視力検査で、見たものの映像の鮮明さを表します。

- ② 眼球運動……見たいものに、視線をすばやく正確に移動する能力です。

- ③ 両眼のチームワーク……両眼の内寄せ、外寄せ、立体視

- ④ 調節機能……見ているものに、ピントを合わせる機能

- ⑤ 視覚認知……見たものを分析・統合する情報処理能力で空間認知や形態認知などです。

- ⑥ 協調運動……目と手足（体）の協応です。

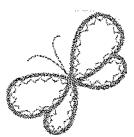
これらの各機能が総合的に働くことで、快適に見て理解し、

考えることができるのです。しかし、この

機能の弱さに気づかなければなりません。そして、

「いつまでも達」が多くになります。

「のよくなつどもたちに對して、私達は「体」が育つといない」と



視覚機能の弱さがもたらす子どもの困りとして、次のような

ことが考えられます。けれども子ども自身が気づいていないことが殆んどです。何故なら、その子にとっては、今の現状が基準だからです。だからこそ、周りにいる私たちが早く気づいてあげることが重要だと言えるでしょう。

子どもたちの困りとして

- ① 絵が上手に描けない。積み木や、パズルができない。

- ② ボール遊びが苦手。バランス感覚が弱い。

- ③ 文字がうまく書けない。文字が覚えられない。鏡文字がある。読むスピードが遅い。

- ④ 図形問題が苦手

- ⑤ 見ることに人一倍エネルギーを消耗するために読み書きなど近くを見ることを避ける。

副次的な問題として起きる」と

集中力や注意力が散漫になる。

ロジック思考が苦手になり、人との交流を避ける。

苦手なことは無意識に避ける。

「不器用な子」「知的発達がゆっくりなのでは?」「わがままだよ」と評価しがちです。子どもが困っている原因をさぐるよりも、「できない」ことの評価が先立ってしまうようになります。一方、子どもたちは勉強が面白くななくて離席したり、やから出て行ってしまったり、まますます手におえなくなってしまうことがあります。

中学生にもなると、黒板一面の板書の中で、今写している所はどこだったのか、見つけ出すのも難しいでしょう。「図と地の関係」と言って、背景から必要なものを見つけ出す力ですかう。こういうことで困っている子は、地図を見るのも難しいでしょうし、失くし物が目の前にあっても見つけられません。

子ども達の脳の成熟は、十～十一歳と言われていて、視機能が完成するのも十歳前後だと考えられています。子どもたちは、視覚のみならず他の感覚機能（聴覚・触覚・平衡感覚・固有受容覚など）と連携をとりながら発達していきます。感覚統合ということばを聞かれたことがあると思いますが、私たちは感覚器官を通して入ってくる情報を的確に整理しながら適応行動に結びつけていくわけです。

おそらく今の子どもたちの「見る力」は、変化してきているようだと思います。遊びの変化は、子どもたちの心身に様々な影響を与えると私は考えてます。

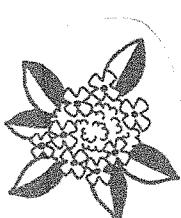
けれども、私たちが子どもたちの「見る力」にひどく困りでいることがあります。子どもたちを救っていくことも可能だと思うのです。「読み書きが苦手」と分かったら、早くに専門機関を勧めましょう。

私は十年以上も前から緑内障を患っていて、右目の視野が欠けていて見えにくくなっていますが、以前には見えていたものが見えなくなつたので気づけるわけです。でも子どもたちは、生まれた時からの見え方ですが、自分で気づくことは出来ないでしょう。周りが気づいてあげることが、子ども達を救うことにつながります。

スマホやカメラのフラッシュの反射が黒目（瞳孔）の中にならない場合には、たとえ視力が良くても専門機関を受診されることを勧めて下さると良いでしょう。

見る力、本当に大切に考えたいですね。

お 知 ら セ



新型コロナウィルス感染拡大防止のため、センター親の会は五月と六月は中止としました。

七月十二日（オニモ曜）はスイトピアセンター6Fの2階、九時半から行います。検温、マスクなど感染防止を徹底した上でお越しください。三ヶ月ぶりの会、元気でお目にかかるのを楽しみにしています。